# 臨地実習の体験が看護学生のキャリアビジョンに及ぼす影響

氏名　　田中　康代
指導教員　鳥取部　真己

要旨

看護職において、近年の少子高齢化の延伸や生産年齢人口の減少において、多様化する看護のニーズや24時間体制の勤務に対応するためには、更に看護師確保を推進していくことが必要であると言われている。新人看護師は卒後のリアリティショックが離職の一要因であり、この緩和には、臨地実習において、学校と臨床とのギャップを埋めることが重要である。また臨地実習において、キャリアビジョンを形成することは、職業的アイデンティティの形成に繋がり、卒業後の離職防止の一助となると考えた。そこで、本論では、臨地実習の体験が看護学生のキャリアビジョンの形成に、どのような要因があるのかを明らかにし、学生のキャリアビジョン形成への支援の重要性を提言する。

看護師養成所3年課程であるA校の学生へ、先行研究に基づき作成したアンケート調査を行った。実習クール終了ごとに調査を行い、延べ149名の回答が得られ、因子分析により、従属変数と独立変数を構成し、キャリアビジョンに影響する要因について重回帰分析により仮説検証を実施した。

分析の結果、A校においては、学生のキャリアビジョンに対し、「心構え」や「手本」が統計的に有意にプラスの影響を与える結果を得た。また、実習経験の段階や実習領域において、これらの要因は異なる結果を得た。更に、追加の分析において、学生が実習施設に就職したいと思うことは、「心構え」はキャリアビジョンを介して間接的に、「手本」は直接的かつキャリアビジョンを介して間接的に影響を与えていることがわかった。

この結果を踏まえ、学生が、看護専門職として卒業後も働き続けられるよう、実習施設の指導者をはじめとする看護師は、学生の看護師としての心構えや看護師の手本がキャリアビジョンの形成に影響を与えることを理解し指導することが必要である。また、実施については、研修会や指導の実践において学校側と実習施設が協力して行うことが重要である。